

佳作

おおきにょ

和歌山県 近畿大学附属和歌山中学校三年 石井 杏奈

私は、夏休みに入るちょっと前、心が温かくなる体験をしました。

学校から家に帰る途中、いつものように電車に揺られて家の近くの駅に着きました。そして、ホームを大勢の人と歩いていて、一人のおばあさんの横を通り過ぎました。腰の曲がった小さな体で、たくさんの荷物を持っていて、その上杖もついています。ゆっくり歩くおばあさんを電車から降りてきた人たちは次々と横から抜かして行きます。私も声をかけようかどうしようかと考えながらゆっくり歩いていると、後ろの人とぶつかってしまいました。仕方なく、「まあなんとかなるだろう」と思っただけなのに、杖をのぼりました。けれどもどうしてもさっきの様子に気がなるので、階段をのぼりきったところで、流れから外れて、人が通り過ぎるのを待ちました。それから階段の下の方を見ると、おばあさんはこれから階段をのぼるところでした。荷物を片手に持ち、もう片方の手は杖を持ちながら階段の手すりを握って立っていました。でもうまく持てずに杖を落としてしまいました。私は、のぼってきた階段を駆け降りて、

「おばあちゃん大丈夫ですか、荷物持ちますよ。」と声をかけました。おばあさんは「あれえ助かるよ、ほなちよっとこれ持ってくれるかい。」

と私に杖を渡して手すりを持ち、のぼるうしろしました。私は重たそうな荷物を見て、「これも持つよ。」と言った。

「ほんまかい、おおきによ。」と荷物を渡しました。きつとおばあさんは私も学校のカバンや荷物を持っていたので、遠慮して始めに言ってくれなかったのだと思います。

おばあさんがのぼる速さに合わせて私も横をゆ

っくりのぼりました。毎日何気なくのぼっている階段がとても長く感じられました。

やっと階段をのぼり、高架橋の直線の道を歩くと、今度は下りの階段です。私はおばあさんに、「慌てなくていいから一段ずつゆっくり下りてね。」

と言いました。おばあさんはゆっくり下りて一番下まで下りました。おばあさんは荷物を受けとるうとしましたが、私は

「改札まで持っていくよ。だから切符出して。」と言いました。一緒に改札を出て別れるときに

「ほんまにおおきにょ。あんたみたいに優しい子に助けてもらってほんま助かったわ。ほんまにおおきにょ。」

と何度も何度もお礼を言ってくれました。私はおばあさんがタクシーに乗るのを見送って帰りました。いつも何気なくのぼり下りしている階段がお年寄りにとってどんなに大変なものかわかりました。そして、おばあさんが言ってくれた「おおきにょ」の言葉が、温かく、いつまでも耳に残りました。些細なことでも人を助けるといことは、助けられる側の人だけでなく、助けた側の人の心も温かくするものだなと思いました。

